

「絆」をメインテーマとしました。一万一千名を超える方々の参加を頂き、天候にも恵まれ全日程を終了することができました。

二七〇〇題超という本学術集会における過去最大の登録を頂いた一般演題発表の他、二つの特別講演、二七のシンポジウム、三一の教育講演、六のディベートセッション(diabetes controversy)等、多くのプログラムが展開されました。

シンポジウムでは国内外の分野を代表する研究者に発表頂き、また教育講演も各領域をリードする座長と演者による質の高い講演を賜り、専門医資格更新のための単位取得を兼ねた良い教育の場となりました。また、三回目を迎えた「若手研究奨励賞 (Young Investigator Award: YIA)」では十五題まで絞り込まれた最終発表演題が審査され、五名の若手研究者へYIAが授与されました。

本学術集会では、門協理事長を始めとする理事・学術評議員の協力により、総会直後に「熊本宣言二〇一三」として新しい糖尿病治療の目標値に関するメッセージを会員ならびに社会へ発信することができました(詳細は、日本糖尿病学会ホームページ内のURL: <http://www.jds.or.jp/modules/important/index.php?page=article&storyid=42>を参照下さい)。

本大会が初めての企画として、「医学生・若手医師のための特別企画」と「一般演題英語セッション」を設けました。糖尿病学が進化を続けるには若い世代の力の育成が必要であり、研究成果を海外に向け発信していく意識や経験が必要と考えたためです。前者では、「糖尿病学

のすすめ」理事長からのメッセージ」と題した特別講演を門協理事長から講演賜わり、日本糖尿病学会の目指すべき未来が語られました。また Group-based learning」として症例検討会が医学生を含む小グループ単位で行われ、参加者から活発な討議がなされました。準備段階から特に九州内の大学を中心として医学生やコメディカルの皆様などの協力を賜わり、盛況に開催することができました。

最終日には日本糖尿病協会と市民公開講座を共催し、会場満員の約一八〇〇名の皆様が糖尿病をテーマとした講演、落語、クイズ等を通して、楽しく糖尿病を学ばれました。

熊本のシンボルである熊本城を会場と



A1c (%)	合併症リスク
8.0%	合併症リスクが約2倍
7.0%	合併症リスクが約1.5倍
6.0%	合併症リスクが約0.5倍

した学術評議員懇親会や Morning Walk in Kumamoto Castle も好評で、天下の名城「熊本城」を十分に堪能頂けたと実感しています。

末尾となりましたが、本学術集会開催にあたり早い段階からご協力やご支援を賜りました公益財団法人肥後医育振興会様、熊本県および熊本市のコンベンション誘致担当者様、学会に参加頂いた皆様に、心よりの感謝の意を表し、学会開催報告を結びます。

**第十三回全国禁煙推進研究会  
「二〇一三世界禁煙デー熊本  
フォーラム」開催報告とお礼**

事務局長(くまもと禁煙推進フォーラム副代表、たかの呼吸器科内科クリニック院長)  
**高野 義久**

平成二十五年六月九日に、くまもと県民交流館パレアにて第十三回全国禁煙推進研究会を開催しました。本研究会は、全国の都道府県の持ち回りで開催し、開

催地の禁煙の取り組みを全国に情報発信をする会です。

熊本県の喫煙対策の大きな課題は、学校の敷地内禁煙化率が全国最低レベルであること、葉たばこ生産量の多さという経済的側面から、受動喫煙対策において「全面禁煙」ではなく、「喫煙場所」の確保・整備を行う」といった議決や、国の禁煙政策に対する反対意見が全国で唯一議決された県であることです。

福田稠大会長(熊本県医師会長)の下「防ごう受動喫煙」学校から家庭へ・そしてきれいな熊本へ」をメインテーマに研究会を開催しました。熊本保健科学大学や九州中央リハビリテーション学院の学生一〇〇名のお手伝いもいただき、五〇〇名の一般参加者を得て、盛大に研究会を開催できました。

講演では、「日本のたばこ対策の現状」(厚生労働省・野田博之氏)、「禁煙を推進する環境整備と受動喫煙防止」(大阪がん循環器病予防センター・中村正和氏)、「タバコの煙もPM2.5」日常生活における曝露の実態とその対策」(産業医科大学教授・大和浩氏)、「禁煙飲食店を営むして受動喫煙防止条例賛同店舗署名の活動」(禁煙飲食店経営者・木下陽子氏)、「こうやってキャンパス内禁煙を実現しました」(崇城大学薬学部教授・松倉誠氏)、「精神科単科病院における敷地内禁煙の取り組み」(明生病院・佐藤英明氏)の講演がありました。科学的データを基に確実に取り組みを進めていくことが大切であることを再認識しました。

テレビ局キャスターの本橋馨氏は最後